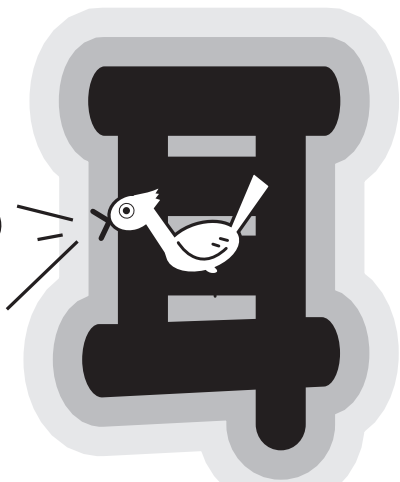


子どものための



のお話

お子さまの
きこえ
について

小児療育相談センター



小児療育相談センターは、地域福祉の向上をめざし、こどもの視聴覚検診を行っております。このパンフレットは視聴覚検査の**聴覚班**が保護者や幼稚園・保育園の先生方にこどもの**きこえ**について知っていただきたいことをまとめたものです。

きこえのしくみ

- きこえのしくみ ①
- 難聴の種類 ①
- 幼児期に多い伝音難聴の原因 ②
- 鼻と耳の関係 ②

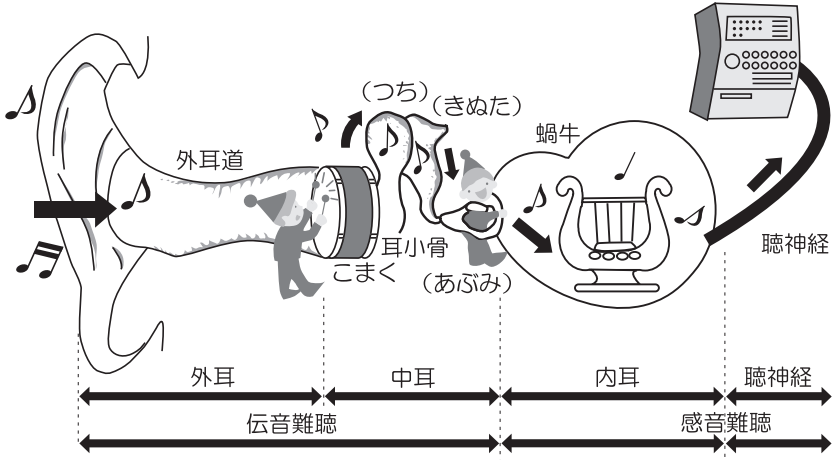
病気について

- きこえに影響する鼻・のどの病気 ③
- 耳の病気 ④

注意すること

- こどものきこえの異常を知るには ⑤
次のようなことに注意しましょう。
- 治療でなおらないきこえの異常が ⑥
みつかったら
- きこえと同時にことばの問題も ⑥
大切なことです。

● きこえのしくみ



音は空気の振動として耳に入ります。この振動は鼓膜につながっている小さな3つの骨（耳小骨）を動かして蝸牛へ進み、さらに聴神経・脳へと伝わります。音がよく聞こえるためには、鼓膜が太鼓の皮のようにピンと張っていなければなりません。

● 難聴の種類

難聴	— 伝音難聴	音が伝わっていく通路となる外耳道・鼓膜・耳小骨など中耳までのどこかに障害のある難聴で、治療によって治ります。難聴の程度はあまり強くありません。
	— 感音難聴 (神経性難聴)	内耳・聴神経・脳などに障害のある難聴で現代の医学では治療の方法がありません。難聴の程度は軽度から聾までさまざま、その程度に応じて補聴器を使ったり、教育面でカバーしなくてはなりません。

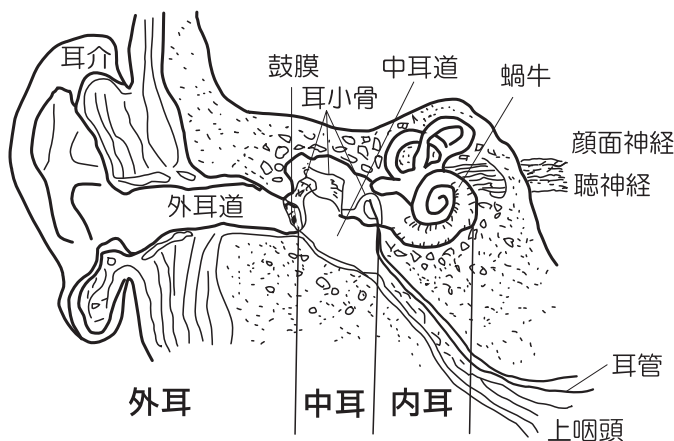
〔幼児期はおとなに比べて、伝音難聴になりやすい時期です。〕

● 幼児期に多い伝音難聴の原因

- アデノイドが大きい
- 鼻づまり（鼻炎・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎など）
- 急性中耳炎
- 滲出性中耳炎
- 耳管狭窄
- 耳垢など…

● 鼻と耳の関係

- 鼻と耳は、奥の方で「耳管」という細い管でつながっています。



- 耳管がよく働いていると…
鼓膜の内側（中耳）と外側（外耳道）との空気圧は、同じに保たれ鼓膜はピンと張って音の振動をよく伝えることができます。
- 耳管の働きが悪くなると…
中耳腔は陰圧になり、鼓膜が張りを失って、きこえが悪くなります。
（鼻づまりの時などに悪くなることが多い）

きこえに影響する鼻・のどの病気

■ アデノイド増殖症

アデノイドは幼児期に最も大きくその後だんだん小さくなっていきます。口蓋垂（のどちんこ）の裏側あたりにあり大きいと耳管の入口をふさぎます。

鼻から吸った空気が通りにくいので、いつも口を開けて呼吸したり、大きないびきをかいたりします。

耳管の働きも悪くなりやすく、滲出性中耳炎の大きな原因になります。

手術が必要な場合もあります。



■ 慢性鼻炎・副鼻腔炎（ちくのう症）

慢性鼻炎・副鼻腔炎がながびくと耳管の働きが悪くなります。中耳炎の原因にもなりやすいので治療が必要です。

15～16歳頃になれば自然に治る場合もあるので、おとなの鼻炎や副鼻腔炎に移行することは比較的少ないといわれています。一般的には、小中学生の頃に手術することはなく、症状が悪化するたびに治療をくり返すことが大切です。副鼻腔炎で頭が悪くなるという人がいますが、医学的には根拠はありません。ただ、鼻の病気があると、頭重感があったり鼻づまりのために注意力が散漫になり、勉強に身が入りにくくなるようです。

■ アレルギー性鼻炎

朝や夕方にくしゃみ・鼻みず・鼻づまりがおこり、鼻や目をかゆがります。

皮膚の弱いお子さんやゼンソクのお子さんなど、アレルギー体質が原因で症状が長く続くと、きこえに影響し、滲出性中耳炎の原因にもなります。

体質的な病気なので完全に治すのは難しいですが、きこえが悪くならないよう症状をコントロールする必要があります。

● 耳の病気

■ 耳垢（みみあか） じこう

人によって湿ったやわらかいものもありますが、体質的なで病気ではありません。

耳の入口付近からでてくるもので、お風呂上がりに綿棒等でふいてあげる程度でいいでしょう。奥にたまったりすると、耳鳴や耳閉塞感がおこることもあり、家庭で無理してとるより、耳鼻科でとってもらおうと安心でしょう。

■ 急性中耳炎

急性中耳炎はカゼからおこることが多く、原因となる細菌が鼻やのどから耳管を通して中耳に入り、炎症をおこします。発熱、耳痛、耳鳴、難聴がともないます。すぐに治療することにより聴力も回復しますが、くり返しかかることもあります。

■ 滲出性中耳炎 しんしゅつ

痛みや耳だれもなく、何となくききかえしが多いとか、返事をしないということを受診して気づくことが多いようです。急性中耳炎の後におきることもあります。アデノイドが大きいとか、鼻の炎症が続いているなどで長い間耳管の働きが悪いと、中耳の粘膜からしみ出た滲出液が中耳にたまるものです。

治療によっていったん治っても、幼児期には、くり返しおこることが多いので鼻づまり、きこえなどに注意していくことが大切です。



こどものきこえの異常を知るには次のようなことに注意しましょう。



- 1 何回呼んでも返事がなかったり、ききかえしが多い。
- 2 いつも片耳を寄せてきく。
- 3 中耳炎をくり返すことが多い。
- 4 ことばが家族にわからないことが多い。

こんなこともやってみましょう。



- 1 ラジオやテレビの音をイヤホンでお母さんとききくらべてください。
- 2 大きな音をスピーカーから出してみてください。
- 3 お子さんのうしろで音の出るおもちゃを鳴らしてみたり、紙を勢いよく丸めて音を出してください。

治療でなおらないきこえの異常が みつかったら



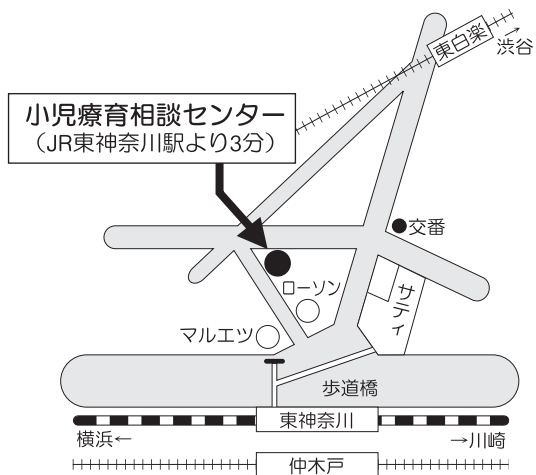
専門機関でどのくらいきこえないのかどのようにきこえないのか測定してもらい、必要な場合は、聴力を補うため補聴器をつけることもあります。これはメガネと同じように、その子の聴力に合わせてなければなりませんので、信頼のおける専門医や教育機関で補聴器装用に関する指導を受け、ことばの発達に問題がある場合は、それに対する教育を受けることも必要です。

きこえと同時にことばの問題も 大切なことです。



ことばの発達はこどもによって個人差があります。特に発音については、それがいえます。発音を覚える順序としては、3才頃までにカ行音や、ガ行音を正しく言えるようになり、サ行、ザ行、ラ行、ツなどの難しい音は6才頃までに発音できればよいとされています。こどもがはっきりしないしゃべり方をした時でも、注意をしたり言い直しをさせたりしないで、よくきいてやり、正しい発音で言ってきかせることが大切です。

一方、舌、口蓋、歯列、口唇などに問題があるために、発音に影響することがあります。万一、心配な場合は、専門機関に相談した方がよいでしょう。



社会福祉法人 **新 生 会**
小児療育相談センター

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-9-1

電話 045(321)1773(直通)